

収支報告

	平成31年(令和元年)度	令和2年度	令和3年度
寄付金 (賛助会員費含む)	1,131万円	1,291万円	1,472万円
経常費用内	管理費 30% (400万円) 事業費 70% (917万円) 1,317万円	管理費 31% (433万円) 事業費 69% (957万円) 1,390万円	管理費 30% (375万円) 事業費 70% (871万円) 1,246万円
事業費内訳	マネークリップ 13% (122万円) 実家便 87% (795万円) 917万円	マネークリップ 11% (103万円) 実家便 89% (854万円) 957万円	マネークリップ 10% (91万円) 実家便 90% (780万円) 871万円

ご協賛、寄付のお願い

当財団は、皆様からの寄付金を財源として運営しています。
当財団の活動にご賛同いただき、ご支援・ご協力をお願いいたします。

振込みによる寄付	リサイクル募金 書籍や書き損じはがきなどの買取金を寄付していただける仕組みです。	賛助会員 年会費は個人1口 ¥10,000 法人1口 ¥50,000です。
-------------------	--	---

財団概要/役員

名称：公益財団法人あいである
所在地：〒105-0004
東京都港区新橋1丁目18-16 日本生命新橋ビル3F
TEL：03-6435-0444
E-mail：info@idealideal.org
設立登記：2015年4月1日
公益認定：2017年4月1日

代表理事 木皿 昌司
理 事 笠作 真一郎
下田 隆二
中村 安志
三浦 保
吉田 倅子
渡辺 修三
監 事 相楽 行孝

評議員 飯塚 良成
太田 一平
安岡 利朗
若杉 千秋

諮問委員 坂本 輝子
坂本 博之
柴山 英士
村井 美紀



公益財団法人あいであるは、

「保護者がいない、保護者のもとで暮らすことが適当でないとされた子ども」の
健全育成支援を行う財団法人です。事業として、社会的養護出身者の退所後の支援「実家便™」、
社会的養護児童の自立支援「お金の管理に関するレクチャー」を行っています。

あいである Annual Report 2022

ご挨拶 ～活動報告に寄せて～

日頃より当財団の支援事業にご理解とご賛同を賜り、厚く御礼申し上げます。

2021年度の支援事業において、実家便支援は、新規200名、継続441名、合計641名への支援を行いました。継続支援者の前回からの継続率は94%。事業開始からの支援人数は1168名、施設数は136ヶ所となり、全児童養護施設数(612ヶ所)のうち、22%の施設で実家便を活用いただいています。施設のアフターケア事業のひとつとして利用されており、施設退所者と定期的に連絡を取る機会、生活状況の把握、サポートにつなげるなど、支援を届けられている中では事業目的が十分に果たしています。一方で、職員の交代などによって本来の目的の部分が引き継がれず、単なる食糧支援と捉えているように思える職員からの報告もあり、継続して支援事業の意義を伝える必要性も改めて考えています。

コロナ禍で不要不急の外出自粛が続く中で、退所者からは「食料品がたくさん届いて嬉しい。お菓子が嬉しかった」「すぐに食べられるレトルト食品とお米は有難かった」「生活が苦しかったから助かった」「防災用品を自分で積極的に購入することは考えないし金銭的にも助かった」などの言葉が職員を通して報告されています。

5年間の継続支援がある実家便によって、退所者と継続的に話ができて、どうして良いか分からない場面で躊躇しないで施設に連絡があるなど、施設職員からは良い関係作りにつながっているとの報告もあります。

社会で生活する中で、気持ちの浮き沈みは誰にでもあることですが、実家便に入っている「あなたのことを気にしています」というメッセージが込められた職員からの手紙が退所者を支える一助となっており、困ったときに自分から相談できるという社会で自活するということの基本が少しずつ身につけているように思います。

施設退所を控えた子どもに、施設として実家便支援を活用し退所後も見守ることを説明する施設もあり、新規支援については、募集開始早々に支援予定数に達し支援をお断りする例が続いています。

お金の管理に関するレクチャー「マネークリップ」は、施設訪問で4か所、レクチャー動画送付で2か所、支援を行うことができました。レクチャーの進め方などを紹介する動画を、助成金を得て制作し、レクチャー申請のあった施設に配布したことで、動画を視聴した施設からは「手探りながらも自分たちでレクチャーを行うことができた」、「貯金って大事なんだなあ」と参加した子どもからの反応があったことの報告を受けています。

新型コロナウイルス感染拡大防止への対応は続きますが、子どもの退所は待ってられません。レクチャー動画の活用を含め、マネークリップレクチャーの紹介、支援を積極的に行って参ります。

児童養護施設や里親家庭で育つ若者の自立支援に関し、原則18歳(最長22歳)までとなっている年齢上限を撤廃する改正児童福祉法が先の国会で成立しました。この法改正によって支援を年齢で一律に制限することをやめ、自治体が自立可能と判断した時期まで継続できるようになり、施設を出た後の支援も強化し、情報提供や相談を受ける拠点の整備にも取り組むとされています。

とはいえ、具体的な予算措置や施策については今後の議論を待つ状態です。心理的サポート、お金の管理を含む社会的スキルを身に付けるための機会提供など、施設措置された子ども、子どもを養育している施設にとっても、当財団の支援はそのニーズに応えるものであり、より一層支援事業の体制強化を図って参ります。皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。

代表理事 木皿 昌司

【公式Facebookを開設しました!】

あいであるの取り組みを身近に感じていただけるよう
情報を発信してまいります。ぜひフォローをお願いいたします!
右のQRコードから、アクセスできます♪



実家便

施設を退所し自活を始めた子どもに6月と12月の年2回、施設を退所した年から5年(10回)を最長支援期間として、施設からの申請を受け食品や生活用品を発送しています。

施設退所者と施設をつなぐ「実家便™」は、施設退所者にとっては施設や施設職員とつながっていることの安心感を得ること、施設にとっては子どもの居場所確認とともに、私たちはあなたを気にしていますというメッセージを「モノ」と「言葉」の両方で送る支援です。

施設退所者が、本当の意味で自立するまでには、時間を要します。唯一の拠り所である児童養護施設とのつながりを持ち続けることは、子どもが再び負の連鎖を生まないための一助となるセーフティネットであり、自立への見守り支援です。



継続支援者宛 令和3年6月送付



継続支援者宛 令和3年12月送付

実績

平成31年(令和元年)度

新規支援人数 207
継続支援人数 344
対象施設 113

施設ごとに単年度での支援対象となる子どもの人数に変動があることを考慮し、今年度から新規の応募について、1施設の申請人数制限5名を撤廃した効果により、応募が多かった。新規分として200名の募集を行い、審査の上207名に発送を行った。内容物については、自然災害の多発により、協賛団体からの支援は他の支援への分散傾向にあったが、商品の寄贈、特別価格による協賛団体が増えたことにより、充実が図ることができている。

令和2年度

新規支援人数 180
継続支援人数 405
対象施設 122

施設退所者へのアフターケアの必要性が着目される中、各児童養護施設の自立支援プログラムとして実家便を活用しているとの報告が多く、継続的に新規支援申請が出されており支援事業として定着していると考えられる。また、新たな施設からの新規申請も出ており、引き続き支援の広がりもみられる。

令和3年度

新規支援人数 200
継続支援人数 441
対象施設 115

施設退所者へのアフターケアが強化される中で、各児童養護施設の自立支援プログラムとして活用しているとの報告が多く、継続的に新規支援申請が出されていることから支援事業として定着していると考えられる。また、昨年同様、新たな施設からの新規申請も出ており、引き続き支援の広がりがみられる。

「お金の管理に関するレクチャー」



社会的養護施設の下で暮らす子どもは、お金の管理や心構え、契約手続きなど社会人として必要なスキルを学ぶ機会がほとんどないまま18歳で施設などから退所し、社会で自活を始めます。未熟なまま施設を退所せざるを得なかった要社会的養護児が金銭的トラブルに陥らないよう、社会適応力をつける機会として、お金の管理や、生活設計について学ぶレクチャーを開催しています。



カード形式のゲームで、取りくみやすい内容です。

社会的養護の下で暮らす子どもがお金の管理について学ぶためのレクチャーを行っています。

実績

平成31年(令和元年)度

新規9団体、継続1団体

職員を対象としたレクチャーが9件、児童と職員を対象としたレクチャーが1件となった。各施設ともお金の管理や生活設計についての指導方法について模索しており、職員の意識合わせにも役立つと好評であった。

令和2年度

新規4団体

コロナ禍にあっても、施設を退所する子どもがお金の管理について学ぶ必要があることに変わりはなく、感染予防の観点から施設訪問を控えざるを得ない状況の中、代替的なレクチャーの要請を受け、動画でのレクチャーを行った。

令和3年度

新規5団体、継続2団体

コロナ禍の中、感染予防の観点から施設訪問を控えざるを得ない状況が続いている。助成金を得て、レクチャーの意義や進捗の仕方などを紹介する動画を制作し、申請のあった施設に配布した。動画は、職員に向けたお金の管理についての啓もう、意識統一の面でも有用であり、視聴した職員が子どもへのレクチャーを行ったとの報告も受けている。今後は動画の紹介、活用方法など積極的な案内が必要と考える。

マネークリップレクチャーの動画を制作しました。

マネークリップレクチャーの意義、進め方などを紹介する動画を制作しました！
レクチャーの申請があった施設に配信しております。

～撮影の様子～

動画制作費を
助成いただきました！



- 参加人数は4名以上
- 銀行係、進行係が1名ずつ（職員のみなさんが担当してください）
- プレイヤーは2名以上（子ども）



公益財団法人
お金をまわそう基金

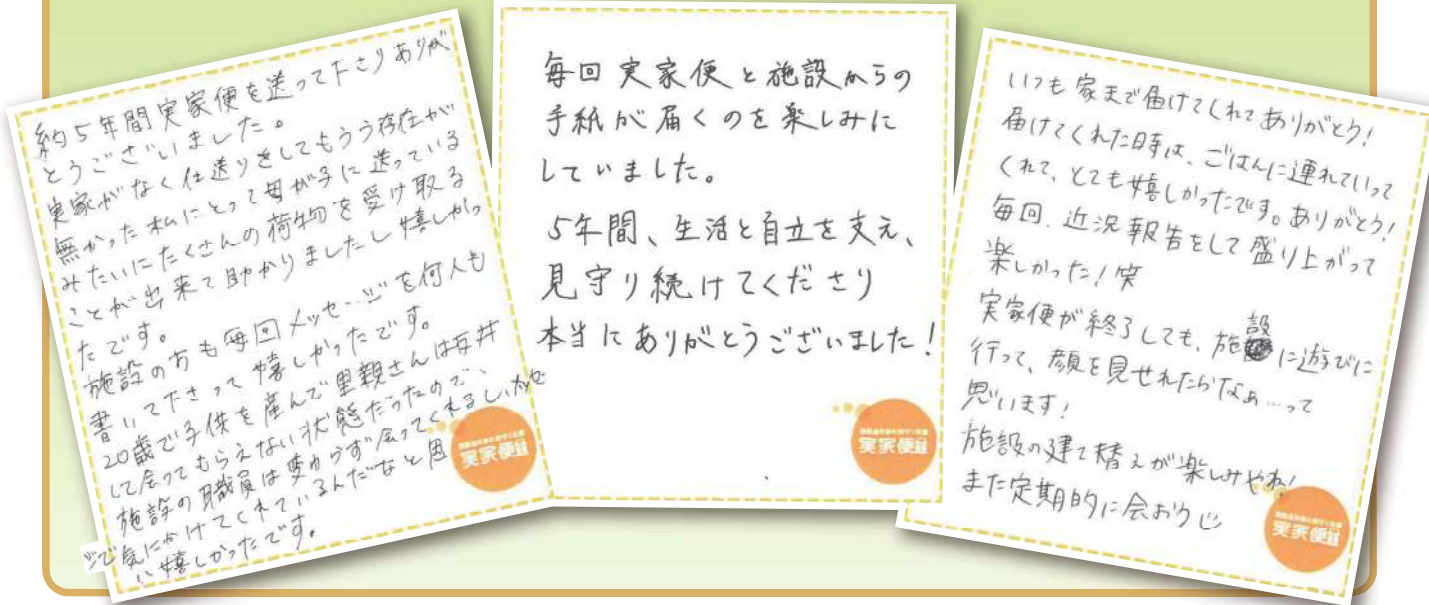
令和4年度は、キャッシュレス決済などの新たな資金決済の仕組みへの対応、成年年齢引き下げへの注意喚起となるカードを追加制作いたします。新たなカードの制作費を引き続き「お金をまわそう基金」の寄付サイトから集めています！右のQRコードからご寄付いただけます♪ご支援いただけましたら幸いです。



Annual Report 2022 実家便

実家便を受け取った子どもの声

実家便最終回を受け取った子どもから、施設の先生、支援者の方へ向けて。



実家便の支援実績

支援年度	H28年	H29年	H30年	H31年	R2年	R3年
支援者数	235名	374名	456名	551名	585名	641名
新規支援者数	143名	166名	172名	207名	180名	200名
対象施設	62	85	96	113	122	115

高校卒業と同時に児童養護施設を退所し、自活をはじめる子どもは毎年約920人※。

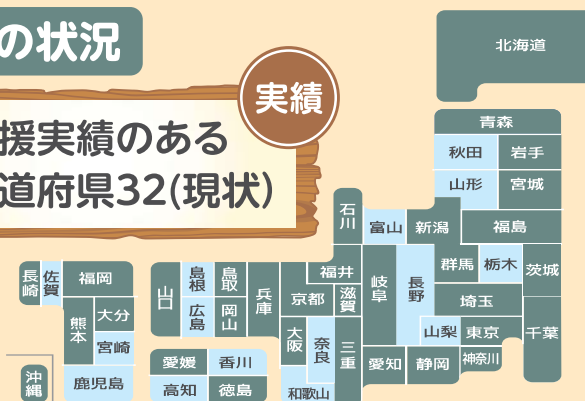
このうちの約**200人**(約22%)が新規支援者として実家便を利用していますが、
まだまだ十分な数字には至っていません。

※児童養護施設入所児童等の進路に関する調査・報告書 令和元年度 全国児童養護施設協議会 図表5-12からの抜粋(H28年～H30年 3年平均)

活動の状況

実績

支援実績のある 都道府県32(現状)



全国の児童養護施設
612ヶ所のうち
136ヶ所で支援の
実績があります。

ご協力企業・団体 多くの企業・団体様のご協力をいただき活動しています。



株式会社アーテック



まいにち株式会社



食品ロス・リボーンセンター



前田製菓株式会社



株式会社 白子



マルコメ株式会社



セカンドハーベスト・ジャパン



コストコホールセール ジャパン株式会社



株式会社たらみ



NPO 法人報徳食品支援センター



日本ハムマーケティング株式会社



株式会社石崎商店



株式会社パン・アキモト



学校法人タイケン学園



ブルーミング中西株式会社



株式会社ヒサゴサービス

その他

(※順不同・敬称略)